

第22回・第3期第3回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 会議録	
開催日時	平成29年12月20日(水) 18:30~20:55
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
次 第	1 開 会 2 議事録の確認 3 議 事 (1) 協働のマニュアル策定部会からの進捗報告 (2) まちづくり計画見直しガイドラインの作成について (3) 今後の取組について 4 その他 平成30年度促進委員会報酬支払いに係る扶養控除(異動)申告書等提出のお願い 5 閉会
出席委員	久委員長、石谷委員、田中委員、平石委員、中山委員、加藤委員、野田委員、藤本委員、成瀬委員、足立委員、檜垣委員、喜多委員、溝口委員、飯室委員、古村委員、光村委員
開催形態	公開(傍聴人3)、関西総合研究所3人、OM環境計画研究所2人

1 開会

第22回・第3期第3回宝塚協働のまちづくり促進委員会の開会。

事務局から、本日の出席者は15人出席、遅れて1人出席、欠席者は3人であること、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は3人であることを報告した。

2 議事録の確認

協働のまちづくり促進委員会(第21回・第3期第2回議事録)、協働の仕組みづくり検討部会(第12回・第3期第1回)議事録、協働のマニュアル策定部会(第12回・第3期1回)議事録の内容を確認。

委員より指摘

- ・第20回・第3期第2回議事録、5ページ目、クの発言、下から2行目「ようい」を「ように」に訂正(誤字)

3 議事

(1) 協働のマニュアル策定部会からの進捗報告

委員より「協働の事例集」の作成について部会での作業報告が行われ、以下の補足説明があった。

- ・協働の事例その6は、最初は本来の事業名を先に入れて「宝塚市学校支援地域本部事業(通称)たからづか学校応援団」という表現にしたが、作業班から「通称」を使

いたくないという意見もあり「たからづか学校応援団（宝塚市学校支援地域本部事業）」となった。その後、社会教育課に原稿の確認をしたところ、正式名称は前に出したいということなので、「宝塚市学校支援地域本部事業（たからづか学校応援団）」に修正したい。

- ・「立ち上げ」という言葉が使われているが、この言葉は自分が立ち上がる時に使う言葉。「発足させる」や「組織させる」といった表現ではないか。「立ち上げ」は使うようになってきているが、この表現を残すことについて皆さんにご相談したい。

ア【会長】「立ち上げる」がちゃんと国語辞典にのっているので、これでよいのでは。

イ 協働の事例その6の表現は、右側の写真を見ても「学校応援団」と入っているし、このパンフレットを見るのは市民なので「学校応援団」といったほうが一般市民はわかりやすい。

ウ 見るのは「市民」で、市民に目を向けてほしいから作っている。これも同じではないか。

エ 活動名であれば良いと思う。

オ 全体のレイアウトについて、文字が一文字下がっていたりなどしているので、調整していただきたい。平成〇〇年度のあとに括弧書きで〇〇年と「度」を入れていないのは違和感がある。全体の統一を図ってほしい。

カ 宝塚市の「塚」は「ゝ」のない「塚」を使うという議論もあった。

キ【市】字体、体裁は業者と調整する。「塚」の「ゝ」も入れる方向で考えている。年号等の表記については、平成〇〇年（〇〇年）度という表現で統一する予定。

ク【会長】度を入れる必要がある場合のみ使い、できるだけ使う必要のないような形にするようにもう一度精査いただきたい。

ケ 5ページ事例2の上から3行目「お話しをお聴きしました」となっているので、「し」を取ってほしい。事例4も同様。

コ 13ページ右カラムの下から8行目「この事業～」部分の前に変な記号が入っているので、削除をお願いしたい。

サ まちキョンのセリフとして「焦らず、慌てず、諦めず」であれば違和感がないが、「飽きる」という言葉がネガティブに感じる。

シ リズム的には3つのほうが良いような気がする。

ス このあたりは作業班で考えていただきたい。

セ 事例2の本文の下から4行目「今回の避難所～」部分は石谷さんのセリフで、カギカッコがいる。

ソ 1ページ目の「平成29（2017）年」という表現は本文に合わせるのであれば「平成29年（2017年）」になる。

タ【市】細かなチェックは年明け早々に業者と契約し、2/27に見ていただければと思う。修正などあれば修正して3月末に製本と考えている。

チ【市】まちキョンの吹き出しの文章は事務局で入れているので、良い言葉が何かあれば遠慮なくご意見いただきたい。

ツ 6ページのセリフは自虐的に聞こえる。元々の背景は、学校の避難所まで行くのが大変であるため、ゴルフ場に避難所を設けることになったはず。「おじいちゃん、おばあ

ちゃんもここなら行けるね。」と書いてはどうか。

テ ゴルフ場の写真があるので、まちキョンがゴルフ場を指差して「ここなら行けるね」と言った方が良い。おじいちゃんとまちキョン両方に入れてはどうか。

ト 例4の遊ぼう会のまちキョンは「仲間に入れて!」と言っているが、この絵だと謝っているように見える。仲間に入っていき感じの方が良いのでは。14ページの「ボランティアの募集を行っています!」は「ボランティアを募集しています」で良い。

ナ できれば「ですます」調は避けたいと思っている。

ニ 「いつでもボランティア募集しているよ」で良い。

ヌ【会長】次の全体会で最終確認・校正という形で進める。

(2) まちづくり計画見直しのガイドライン作成について

事務局からまちづくり計画見直しガイドラインのたたき台、地域ごとのまちづくり計画の役割分担一覧表について、資料に基づき説明が行われ、以下の補足がなされた。

- ・目次は平成14年度のものに基づき設定し、前回の委員会での意見などを反映している。
- ・「まちづくり計画見直しガイドライン」については、「協働の指針」「協働のマニュアル」と合わせた3点セットで配布予定。
- ・地域ごとのまちづくり計画の役割分担一覧表は、平成24年度に第5次総計に基づいてチェックしたもので、事業項目の合計件数とその割合を示している。項目は行政がするもの、協働でするもの、住民でするもので分けている。

<資料の訂正>

- ・ガイドライン資料の目次部分 2. 「どうやって計画を見直すの?」(2) 各段階での作業のポイントの①～⑤については、8ページの内容が正しい。

ア 今までのまちづくり計画があることを踏まえると「今回見直しの～」といちいち説明していかなくてはならない点がわかりづらい。今回の見直しされる計画を、「新～」「第二次～」など固有名詞を決めてしまえば頭に入りやすい。

イ 「まちづくり計画ガイドラインの作成」において、促進委員会の役割が確認されないまま話が進んでいる。地域カルテに盛り込む内容についてもこの委員会で検討した方が良いでしょうと思う。このガイドラインを発行するのが宝塚市であれば、促進委員会のメンバーはいらない。促進委員会が出すのであれば、市民が市民に向かって6次総の一編となるのを目指すと宣言して促進委員会が責任を取ることになる。促進委員会は添削してくださいというのであれば、それなりの意見になる。そのあたりをはっきりすべきである。

ウ【会長】全体のフレームワークとそこでの委員会の役割を共有する必要がある。政策推進課の総合計画に位置づけるということも含めて、誰がどのように進めていくか。住民側を「パートナー」として位置づけているのは、市のどこ部署なのか。市民協働推進課で書けないところもあると思う。我々がたたき台を叩いているが、協働で作るのか、我々が意見を言って最終的に事務局が作るのか。

エ【市】以前のガイドラインは、下に見てある通り検討会議が発行したものであるが、最終ページに市が入っているので、協働で作ったものである。今回も同様に、市と促進委員会が協働してつくる。

- オ【会長】協働でつくるということであれば、我々も覚悟を持って取り組まなくてはならない。そうすると少し勇み足があるのではないか。今後軌道修正してやっていきたい。そういう眼でみて意見を出していただきたい。
- カ このガイドラインは最終的に市や各まちづくり協議会が使う。それぞれが使いやすいものにならなくてはならない。前は、各まち協からメンバーが出てガイドラインをつくったので、各まち協でもそれを受け入れられたが、「まちづくり協議会代表者交流会」があるのを差し置いて、ここで作ってしまうと「まちづくり協議会代表者交流会」は「作られたものを使ってやるのか、使いにくい。」となってしまう。
- キ 「地域の特徴にあったメンバーの選定」で「計画見直し部会等を立ち上げ、アイデアを出し合い、話を進めましょう」とあるが、これが本当に一律でできるのかといえば、各地域で違いがあると思う。フォーマット自体がもう少し柔軟なものでないと使いづらい。「誰がこれを使うのか」をよく考える必要がある。
- ク【会長】まちづくり協議会代表者交流会との関係について整理が必要である。
- ケ【市】促進委員会の素案が固まった時点で、代表者交流会に意見を求め、その後各まちづくり協議会からの意見をいただいて3月にまとめて完成させ、4月から作業に入りたいと考えている。
- コ【会長】協働でいちばん大切なことは、白紙の状態からどのように案を作っていくかというところにある。誰かが作った原案を見てくださいという進め方は協働ではない。委員会が原案を作って代表者交流会にかけるのも同じことになる。それならば、もっと柔軟な段階で、皆で意見交換をしながらまとめていく作業のほうが本来の協働の形ではないか。
- サ 促進委員会の目的を考えると、ガイドラインの作成に関わるべきである。しかしながら、まちづくり促進委員会も関わることを、まち協側が理解してもらうことが必要である。地域カルテについても平成10年の時にやった方法を採用すべきかについて地域から意見を聞き、こちらから提案する際は地域に「これでいける」と言ってもらえるものにしなくてはならない。そのためには、3月末というスケジュールは難しい。ガイドラインを作成する前に検討する課題がまだあるのではないか。これを作るのに6ヶ月くらいはかかるのではないか。
- シ 今回のまちづくり計画は抜本の見直しである。スタート地点は、今のまちづくり計画を前提にしないと、なぜ風化したかの反省ができない。これまでのやり方をなぞるのは違和感がある。5次総までの反省をして、見直しの仕方も変えようといった議論を、一緒に時間を掛けてスタートしていく方がよかった。そういった話を市と一緒にやっていると良いのではないかと思う。
- ス 何故まちづくり計画の見直しをしなければならないか、状況や課題、これを解決するためにはガイドラインを作らないと宝塚市全体が上手く行かないという懸念があるということについて、まち協の代表者が納得すれば文句は出ない。納得していない部分がある状態で走っているので、いろいろな話をして納得する形を取らないといけない。
- セ【会長】それぞれのまち協が計画を作るので、ガイドラインは計画づくりをする時の「こういうことをやりませんか?」「こういうやり方もありますよ」という参考にするための冊子である。そういう位置づけで見ただけであれば、そんな厳しい意見で返ってこないと思う。その説明がきちんとできるかどうかの1点にかかっているのではないか。

少し言い方を間違えるとかなり大きな問題になってしまう。言葉遣いも慎重にする必要がある。

ソ 根本的な部分であるが、この計画を見直して総合計画に盛り込むのが「目的」か、それとも地域が計画を見直して課題を解決していくことが目的か。

タ まちづくり協議会ができたことによって、地域ごとの現状と課題が出てくる。そうすると宝塚市全体の総合計画を作る時に、各地域に必要な施策が見えてくる。そこから総合計画に盛り込まれることも考えられる。そうでなければ予算付けもできない。各まちづくり協議会は、材料提供と考えてしっかりと計画を作る。今回の計画については、全て市が絡まなければならない。市が絡んで双方納得の上で計画が作られれば、総合計画に入るし、市が納得しなかったら総合計画に入らない。

チ 乱暴に言えば総計に盛り込むためだけであったなら風化したと言える。行政側も日常的な業務の中で解決できるものだけ解決しようという姿勢であった。このあたりをしっかりと反省すべき。実行するのが目的であるはず。

ツ【会長】何を見直すかも2つあると考えている。1つは地域の中のまちづくり計画を内容的にも見直していく。未来永劫持ち続けるような将来像・方針を皆で決めたという計画にするためには、どうすればよいかをこのガイドラインに掲載する。そもそも「まちづくり計画ってなんなの？」ということに掲載しておかなくてはならない。大きな方針がなくても個々で活動することはできる。しかし、大きな方向性があるこそ、ひとつひとつがそれを目掛けて活動を繰り返すことで、最終的な将来像へと近づいていける。こういった大きな道筋をつけてくれるのが、「まちづくり計画」。本来は役所に言われなくても地域主体で作るべきものである。一方で、市も、しっかり魂込めて作った計画をどのように本来の形で総合計画に位置づけ、市が協働でやるという所に持っていくのか、ということも反省を込めて見直して欲しい。作る段階からどのように行政が関わる仕組みを、もう一回作り変えていかないと同じ轍を踏むことになる。その両方を見直していくためのガイドラインと思っている。

テ ガイドラインを作るにあたって、今回市側の各部局の意見がなければできない。市側がどういう形で関わっていくかを今ここで議論して形はできるだろう。しかし、いざ進んだ時に住民が動いても市側が動かないと前と同じになる。市側もこのガイドラインで、市としてどのくらいまで動けるかを詰めておいていただきたい。市側の意見もガイドラインの中に盛り込んでいかなければならない。

ト【会長】市と委員会はガイドラインのたたき台を作らせていただき、まち協の皆さんの意見をふまえて修正をかけていきたいと考えているが、代表者交流会で最初から一緒に関わりたい希望があれば、ガイドラインの策定に掛かる部会を設けてもよい。そのあたりは代表者交流会にかけていただきたい。

ナ 「何故見直しをするのか」ということの説明が必要ではないか。その失敗を繰り返さないということをはじめに入れたほうが受け入れやすい。なぜ、総計で見直しをしようとしてきたか。そうすると過去の反省をしなくてはならない。

ニ ゴールが書いてないからよく見えないのではないか。

ヌ【会長】全まち協でまちづくり計画が作られているが、次の代に変わったときもみんなが知っているはずだが、そうっていないのが問題。今回の見直しでは10年後にも誰かが関わっていて皆知っているという作り方をしないといけない。たくさん意見を聞き

ましようと言うだけでなく、なぜそれをしないといけないのか、しないとどうなるのか、したらどうなるのか、ということをもう少し書き込んでおけばずっと落ちる部分が増えてくるのではないかと思う。個人参加で全員が関わっているというのがまち協の役割。若い人からお年寄りまで全員が関わるという形がよい。「小さい方から全員が構成員ですよ」と言い切っている。そこで議論をして地域のビジョンとして計画を位置付けていただくということを強調していただきたい。

ネ 明確にゴールの設定ができるものもあれば、そうでないものもあるのがまち協の活動ではないか。見えにくいゴールも入れることができると良いと思う。

ノ【会長】「言葉遣いを考えませんか」ということは書いてほしい。「仲良くなりましょう」と「仲良しの状態を継続していきましょう」というのではニュアンスが違う。言葉一つで答えが変わってくる。目標設定をしっかりとした上で言葉を選ばなくてはならない。言葉遣い一つがデリケートなものという例も出していただいて、本来あるべき目標や将来像を理解いただけると良い。

ハ 第6次総合計画を考えた時に目標設定の言葉は出てくると思う。第5次総計の中で「新しい公共の地域活動が活発なまちづくり」とある。この言葉をゴールに設定して、ふさわしい計画を検討する方法もあるかと思う。目標をすごく手前に設定して達成しやすくすることもできるし、遠くにおいて、いくつか設定することもできる。

ヒ エイジフレンドリーシティで「高齢者にやさしいまちづくり」という目標を掲げているが、イメージが湧かないと怒られた。行政や社協がどんなことをするのか、住民が何をすべきか全くイメージが湧かないとのことであった。自分自身がどんな街に住みたいかというイメージの共有が重要である。

フ まち協の運営ガイドラインを皆さんで作った。運営のチェックポイントの中に「計画を中心に考え動く」の項目には「5年先、10年先に向けて、どのようなまちづくり協議会を目指すか話していますか?」「5年先、10年先に向けて、どのような地域にしたいか話していますか?」「計画は皆で共有し、必要に応じて見直していますか?」「取り組んだ事業の成果と課題を振り返り、結果を共有していますか?」とある。この計画見直しの先には、それがなくてはならないので、それができるような形の見直しのガイドラインでなくてはならない。見直しに参加したいと言ってもらえるようなガイドラインにすることがまず作る方々全員で共有できればと思う。

ヘ イベント型か事業型かという問題がある。長寿祭りに80名が参加した。しかし、80歳以上の地域住民は地域に1,200人いる。言い換えれば、そのうちの80名しか対象となっていない。お祭りなどのイベントも重要だが、1,200人に対する事業についても計画の中に盛り込めるような仕組みづくりが必要ではないか。

ホ 今悩んでいるのは、どういった形で作っていくのかである。前回40代に計画を作らせるという話があったが、いまの宝塚市の現状を見ると40代は出てこない。それでは強制的に巻き込む仕組みがいるのではないか。あるいは小学校の授業などで自分たちの地域をどうするかといった授業なども必要ではないか。そのような意見を収集する方法なども盛り込んでいけると良いのではないかと思う。

マ【会長】計画づくりについては、意見を聞く段階と計画案としてまとめていく段階の2段階構えになっている。最初から一部の人を集めてという形にするから駄目で、計画づくりは沢山の人の意見を出してもらおうことと、それを上手くまとめていくというやり取り

である。そのためには、手法がいくつかあるという風な書きぶりしておけば、一つに固定しない。市の計画づくりの際の委員を選ぶ場合も同様である。他市ではワークショップを10班でやって、そのグループの中から一人ずつ委員会へ送り込んでいく形を取っている。これにより、ワークショップの中の意見を委員会で反映できるようになっている。他にも様々なバリエーションがあるので、それらの例示があるとよい。その前に、そもそも何故そんな事をやらなければいけないのかの理由を提示する。メニュー方式だと自分たちの地域で考えてくれる。あまり強制しないが選択できる、そういう書きぶりが必要なのではないか。

ミ 安心安全のまちづくりで防災訓練をしようとした場合、参加者が少ない。では楽しいイベントをしてから誘導しようという話もよく出るが、もとは安心安全を目的としているながら、手段として顔の見える関係づくりや、和やかな関係づくりにつながっていく。項目を表にすると縦のラインだけしか見えないが、横のラインでリンクしあうことがあるので、どこを見るかで違ってくる。結果として、イベントにはたくさん人が来て成功だった、結局防災訓練にはあまり人が来なかったのが失敗だった、という評価になってしまう。

ム 総合防災訓練をしても参加者が少ないということでイベントを兼ねてやろうかとやってみた。最初にイベントをする。炊き出しもする。自治会の防災グッズの展示や水消火器で訓練や放水を1回やって、迫力ある放水をみて、その後防災訓練のあとに抽選を行った。最初は十数名の参加だったが、今年参加者は300人になった。ただイベントだけではなくて、自主防災のようなものを取り入れてやると人が来てくれる。

メ 災害対策委員会は避難所の運営を行うが、避難できない人・しない人は自治会が対応する。活動部隊と自治会が得意分野を活かして役割分担をしなくてはならない。これがまちづくり協議会だと感じた。活動団体をやっている人はイベントをして人がきたら成功と思っているが、自治会の見守りなど見えないところで仕組みが作られていることが重要である。

モ【会長】目標評価の仕方をきちんと考えながら、文章を書いてほしい。先程の話では避難訓練に出てくる人ではなく、出てこない人を絞り込んでいく。評価が何を目指しているのかを確認していく必要がある。評価をどのような手法で行うかを想定していなくてはならないので、PDCAをしっかりと意識して評価を作っていくということも書き込んでおいて欲しい。まだまだこれからの作業と思いますが、よろしくお願いいたします。

(3) 今後の取組について

【市より地域への今後の進め方について】

マニュアル部会の活動を休止し、今後の取り組みについて議論いただきたい。

ア【会長】新たに部会を立ち上げることができるが、要望はあるか。

イ NPO等の協働、契約行為に関する協働のあり方について、部会を希望する。

ウ NPOに限らず活動団体、支援組織なども含めたものではどうか。

エ【会長】内容的には少し広めのパートナーシップということでしょうか。

オ【市】契約課が主管となり公契約条例について審議会が3月からスタートするので、そういう流れがあることを意識しながらご議論いただきたい。

4 その他

- ・平成30年度促進委員会報酬支払いに係る扶養控除（異動）申告書等提出のお願い

- ・協働の指針の市民説明会

2月3日（土）中央公民館で13時半から予定

- ・プロジェクトチームについて

会合が12月12日（土）に行われた。次回会合は1月11日（木）14時から予定。はなみずき原稿保育園園長先生からお話を伺う。

12月25日（月）に檜垣委員と喜多委員に保育園に同行いただき説明していただく。

- ・今後の開催日程について

平成30年1月25日（木）18時30分～ 第13回協働の仕組み